

# 特定化学物質及び監視化学物質の要件及び評価のための試験項目について

参考3

	要件 ※ ()内は法律上の規定	評価のための試験項目
<b>第一種特定化学物質</b>  (注)人及び高次捕食動物への長期毒性を有することがいずれも明らかでない場合には第一種監視化学物質として判定される。	難分解性である (自然的作用による化学的变化を生じにくいもの)	微生物等による化学物質の分解度試験
	高濃縮性である (生物の体内に蓄積されやすいもの)	魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験 又は 1-オクタノールと水との間の分配係数測定試験
	人への長期毒性を有する (継続的に摂取される場合には、人の健康を損なうおそれがあるもの)	化学物質の慢性毒性試験、生殖能及び後世代に及ぼす影響に関する試験、催奇形性試験、変異原性試験、がん原性試験、生体内運命に関する試験及び薬理学的試験
	又は 高次捕食動物への長期毒性を有する (継続的に摂取される場合には、高次捕食動物の生息又は生育に支障を及ぼすおそれがあるもの)	ほ乳類の生殖能及び後世代に及ぼす影響に関する試験並びに鳥類の繁殖に及ぼす影響に関する試験
<b>第一種監視化学物質</b>	難分解性である (自然的作用による化学的变化を生じにくいもの)	微生物等による化学物質の分解度試験
	高濃縮性である (生物の体内に蓄積されやすいもの)	魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験 又は 1-オクタノールと水との間の分配係数測定試験
	人への長期毒性を有するか不明 (継続的に摂取される場合には、人の健康を損なうおそれがあるかどうか明らかでない)  かつ 高次捕食動物への長期毒性を有するか不明 (継続的に摂取される場合には、高次捕食動物の生息又は生育に支障を及ぼすおそれがあるかどうか明らかでない)	/
<b>第二種監視化学物質</b>  o r  <b>第三種監視化学物質</b>	難分解性である (自然的作用による化学的变化を生じにくいもの)	微生物等による化学物質の分解度試験
	高濃縮性ではない* (生物の体内に蓄積されにくいもの)	魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験 又は 1-オクタノールと水との間の分配係数測定試験
	人への長期毒性の疑いを有する(第二種監視化学物質) (継続的に摂取される場合には、人の健康を損なうおそれがあるものに該当する疑いがあるもの)	ほ乳類を用いる28日間の反復投与毒性試験並びに細菌を用いる復帰突然変異試験及びほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験による変異原性試験
	生態毒性を有する(第三種監視化学物質) (動植物の生息又は生育に支障を及ぼすおそれがあるもの)	藻類生長阻害試験、ミジンコ急性遊泳阻害試験及び魚類急性毒性試験

\* 「難分解性」、「高濃縮性」及び「生態毒性あり」(高次捕食動物への毒性なし)の化学物質も第三種監視化学物質に該当することもあり得る。